

令和 6 年度 第 4 回東広島市地域公共交通会議 議事録

会議内での発言については、逐語録ではなく要約しております。

1. 日時

令和 6 年 11 月 29 日（金） 10：00～

2. 場所

東広島市役所 本館 4 階 会議室 404

3. 出席者

塚井会長、井上副会長、山口委員、見崎委員、渡瀬委員、山根委員（代理：鴨下部長）、坪内委員、山田委員、佐久間委員、片山委員、山田谷委員、河井委員、薦委員（代理：金平専門官）、丸石委員、大月委員、藤原委員、台信委員（代理：土本次長）、惣引委員

4. 議事次第

1 開 会

2 審議事項

（1）東広島市地域公共交通会議 SNS 運営ポリシーの策定、活用方法について

3 報告事項

（1）各種事業進捗報告について

（2）西条エアポートリムジンの運賃改定について

4 その他

5 閉会

審議事項（1）東広島市地域公共交通会議 SNS 運営ポリシーの策定、活用方法について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○山口委員： 弊社の SNS アカウント（X、Instagram、YouTube）と、今回作成の東広島市地域公共交通会議の SNS を相互フォローするよう社内で検討したい。

○事務局： 交通会議の SNS はまだ始まったばかりなので、とてもありがたい。

○山田谷委員： SNS の管理や発信は誰が担当するのか、それとも AI に任せるのか。

○事務局： SNS の管理運用に関しては、コンサルタントの BRIDGEOVER に交通会議から委託している。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○河井委員： 会議メンバーの感想が SNS に掲載される場合、どのような情報が載るのか。

会議メンバーが団体を代表して出席しているため団体名が公開されるのか。
また、発言内容が発信の仕方によって誤解を招く可能性があるため、発信前に会議メンバーへの確認が必要ではないか。

○事務局： 交通会議の議事録は委員の確認後に公開しており、SNS 発信時も誤解を招かないよう事務局と委託会社で注意する。必要に応じて、発言者の確認を得る手順も想定している。

○金平代理： 公共交通会議で SNS を運用するのは珍しい取り組みなので進めてほしいが、発信する情報について確認したい。投稿内容に記載されている以外に予定しているものはあるか。

○事務局： たとえば、報告事項（１）にある各種事業進捗報告の豊栄そよかぜ号の取り組みなど、地域での話し合いや講演会といった東広島市内の地域交通の動きを、SNS でわかりやすく投稿し広く共有することが一例として考えられる。

○金平代理： SNS 運用ではフォロワーの確保が重要なため、運休などの運行情報を発信することで多くのフォロワー獲得につながると思うので、検討してほしい。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○見崎委員： SNS 運用ポリシーの「5.利用者による書き込みの削除等」に、企業への誹謗中傷も含めてほしい。特に交通事業者は SNS でご意見をいただくことがあるため、配慮をお願いしたい。

○塚井会長： 運用方針は必要に応じて修正する。運行情報は便利だが、提供を始めると苦情を受けることが予想されるため、適切なタイミングと内容で発信することが重要。平凡な情報ではフォロワーが増えない一方で、踏み込みすぎない範囲で興味を引く工夫も必要。運用する BRIDGEOVER で慎重に検討してほしい。

○鴨下代理： 運行情報を提供しないことが苦情につながることもある。事業者は運行情報をホームページや SNS で発信しているが、大雨で運休が発生する場合など、行政の対応体制の検討が必要。

○事務局： 交通事業者以外が運行情報を SNS で発信する場合、慎重な対応が必要。即時発信が可能か、体制を含め、現実的な方法を検討したい。

○塚井会長： 運行情報を SNS で発信する場合、行政にとっては二次情報となるため慎重な検討が必要。早朝や勤務外の時間帯での対応、交通事業者以外が運行情報を発信する現実性にも懸念がある。実験的な運用も視野に入れつつ、市独自の運用方針を検討してほしい。SNS 運用は費用がかかるため、費用対効果を考慮し、存在意義を証明できる運用を進めるべき。長期的な継続を目指し、市の予算部局との相談が必要。

○塚井会長： それでは、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。

○全員 <意義なし>

○塚井会長： 本審議事項については、合意したものとする。字句等の修正については、会長に一任いただきたい。

報告事項（１）各種事業進捗報告について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○丸石委員： 志和ホテル交通の利用が伸びない原因は何か。全戸配布である程度認知されていると思われるが、改善策として受付時間の変更が検討されている。問題が受付時間なのか、そもそもの需要がないのか等について知りたい。

○事務局： 地域の方は、名前は知っているが使い方がわからないと言われる。車生活に慣れていて、そこからの転換がなかなかできないのかと思われる。一度乗って体験していただくことが重要だと考えるが、そこが一番のハードルとなっていると思われる。今後は、地域の方による地道な個別訪問の実施などを行い、使っていただけるような環境を整えるように市は伴走支援したい。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○鴨下代理： 昨年に引き続き、自動運転・隊列走行 BRT の実証実験が行われるが、今後この実験を続ける際、市の考えはどうか。

○事務局： 自動運転・隊列走行 BRT に関しては、分科会で議論させていただいた。基本的には今進めている将来のまちづくりで、この自動運転・隊列走行 BRT をどのように市の交通基盤として取り込んでいくのかということをテーマに分科会で協議をしていただいた。基本的には自動運転・隊列走行は 2027 年のレベル 4 を目指している。ただし区間は主にレベル 4 の認可がおりやすい一部区間を設定しており、乗務員を極力少なくして効率化を図るとか、隊列走行し一度で大量輸送する効果というのは、一部の区間では発揮できないというところもでてくる。自動運転・隊列走行 BRT をどのように進めていくのかを議論していくなかでは、BRT という専用レーンの設置により定時制を高めた交通の導入をしていきながら、自動運転・隊列走行という技術を融合させ、将来的な都市形成を考える。長期的なスパンにはなるが、この自動運転・隊列走行 BRT を交通サービスとして実装させていくという流れを想定している。具体的にいつ頃になるのかというのはまだ政策形成段階であり、市民の理解を得ることも必要なので、ワークショップなどを通じて、市民や技術の社会受容性を考慮しながら進めていきたい。また交通会議資料で考え方を報告させてもらう。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○山口委員： 志和ホテル交通の課題解決には「おまるめ山バス」の取り組みが参考になると思った。運動会での利用や乗り方教室、おでかけ動画など、地域で親しみを感じさせる取り組みに感心した。これらの取り組みに関して、どういった

反応や感触が得られたのか教えてほしい。

○事務局： 数字の効果を得たということではないのかもしれないが、乗り方教室で乗ってみて乗り方がわかり、実際に利用したという人を数人聞いている。運転士から「動画がきっかけで利用した」と利用者との会話があったとの報告を受けている。

○山口委員： おでかけ動画をどのような場所で流しているのか、参考として教えてほしい。

○事務局： 現時点では、おでかけ動画は乗り方教室や地域サロン、地域行事（運動会や室内行事）や行事の待ち時間などで活用されている。

○山口委員： デマンド交通の利用促進は地道な活動が重要であり、全国的に共通の課題となっている。今後、さまざまなエリアでこの取り組みを共有する機会を持ちたい。

○鴨下代理： 東広島市の YouTube の公式チャンネルでは出していないのか。

○事務局： 現時点ではそちらでは出していない状況である。

○鴨下代理： もし可能なら、そこで発信すればいいのではないかと思った。

○塚井会長： その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 豊栄そよかぜ号について、今後、運行計画の素案を作成して、提言書を取りまとめということであるが、現状の感触、会議の参加される方の様子、運行の見直しの方向性について、感覚的なものになるかと思うが、出来る限りで情報をいただきたい。

○事務局： 豊栄そよかぜ号は平成 21 年に運行開始されたが、利用者が低迷しており、地域から改善の声が上がっている。検討会議では、定時定路線のメリット・デメリットや志和ホテル交通のようなデマンド交通の導入案が議論されているが、いずれも一長一短があるため慎重に検討中。再編を視野に入れた検討を行っている。地域アンケートを実施し、その結果を参考に方向性を決める方針。

○塚井会長： 現状奪回は容易ではないが、しっかり取り組んでいるので、明確な方向性が見えることを期待している。

その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 認知の向上に関して大月委員に確認したいことがあるのだが、路上に工作をしたら邪魔になるし、ペイントも耐久性を要するので、目を引く取り組みとして先ほどの動画などをその場所で臨時に流すということが考えられる。逆に言うと、ポスターを貼り出すということも悪くはないが、だんだん見慣れてきて、動かないものに継続的に注目を集めることは難しい。路上にプロジェクションマッピングをするということが考えられる。車道は難しいので、

歩道の方がやりやすいかと思うが、何か移り変わるものを歩道に表示しようとすると、規制や法律などで注意することはないか。

○大月委員： 歩道に投影して、通行する人に観てもらおうということか。

○塚井会長： 例えば、おまるめ山バスが着くということが常に表示されるのではなく、一時的に内容が投影され、バスがいなくなったら投影がなくなるというようなこと。

○大月委員： そのあたりの知識については持ち合わせておらずこの場で回答できず申し訳ない。いわゆる電光掲示板などであれば、設置されるものは、運転される方に支障がないような場合であれば問題がないと思われるが、実際に歩道に投影するということになれば状況は異なる。実際に一般交通の用に供されているところでのプロジェクションマッピングはまだされていないかと思う。

○塚井会長： 歩行者の無断横断の防止や高速でのプロジェクションマッピングの利用の検討を始めていると、先日学会で聞き、どうやってやるのかと思っていた。認知喚起の方法で、路面が使えるのであれば意味がないことはない。ただ、指摘していただいたように歩く人が驚かれたり、転んだりすることがあればうれしくない。ただ面白い手法かと思い、興味のままに伺った。具体的にどこかで検討しているということではない。また情報があれば報告させていただく。

その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

報告事項（２）西条エアポートリムジンの運賃改定について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長： ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： 西条エアポートリムジンの運賃改定自体は広島市内を中心にここ数ヶ月でいろいろ運賃改定が実施されている流れの中なので、違和感はないと思った。広島からだ西条エアポートリムジンと白市駅接続のバスが選択肢となる。西条エアポートリムジンの運行開始にあたり一定の需要があるという話であったが、コロナがあり、運賃がどこも上がっているのも、この衝撃で利用者が減少することはないと思われるが、現在の利用状況はどのような感じか。

○事務局： コロナ禍で一部運休があったものの、令和５年度の１便あたり平均利用者数は１０人程度で、当初予測の１１人に近い状況となっている。令和元年度のコロナ前の利用者数を超え、利用は徐々に増加している。白市駅接続の運行路線も利用者数が増えており、バスによるアクセスの割合がこのエリアで増加している。

○塚井会長： 目論見通りの事業になっているならば、運賃改定に異論はない。

その他ご意見、質問などはあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： その他この場でお話されたいことがあればお願いしたい。

○渡瀬委員： 当社は2月1日から一般路線の広島地区と東広島地区の運賃値上げを計画しており、詳細はホームページ等で発表するので確認してほしい。

○山田委員： ライドシェアを全国的に我々タクシー業界は行っているが、10月の西条酒まつりの日以降、東広島では、(株)東広島タクシーが実際に行っている。今後の調査結果等を踏まえて、ライドシェアの拡大等の検討を行いたい。

○塚井会長： その他お話されたいことがあるか。

○全員 <なし>

○塚井会長： それでは、これもちまして、本日予定されていた議事等は、全て終了した。委員の皆様には、会議の円滑な進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。以上で令和6年第4回東広島市地域公共交通会議を終了する。

以上